

## 琵琶湖疏水図面集

滋賀県大津市～京都府京都市左京区

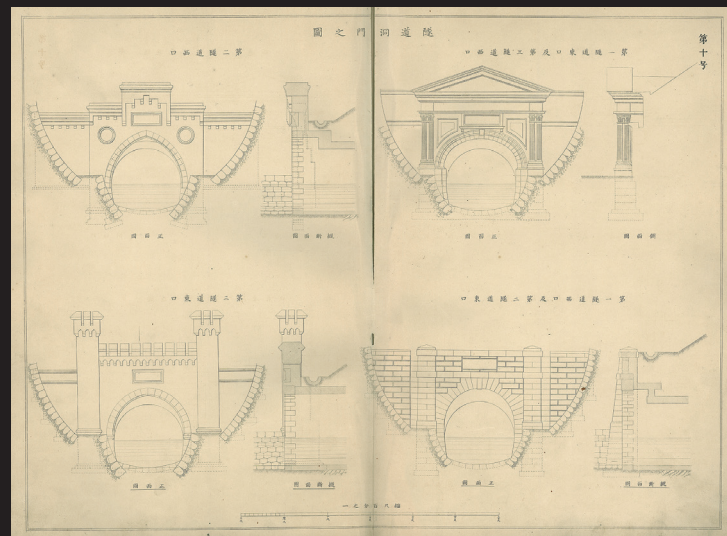
- インクライン／京都市京都市左京区 京都市営地下鉄東西線「蹴上駅」から徒歩3分
- 南禅寺水路閣／京都市京都市左京区 京都市営地下鉄東西線「蹴上駅」から徒歩10分
- 第二隧道西口／京都市京都市山科区 京都市営地下鉄東西線「御陵駅」から徒歩10分

## 田辺朔郎を陰で支えた小西得太郎

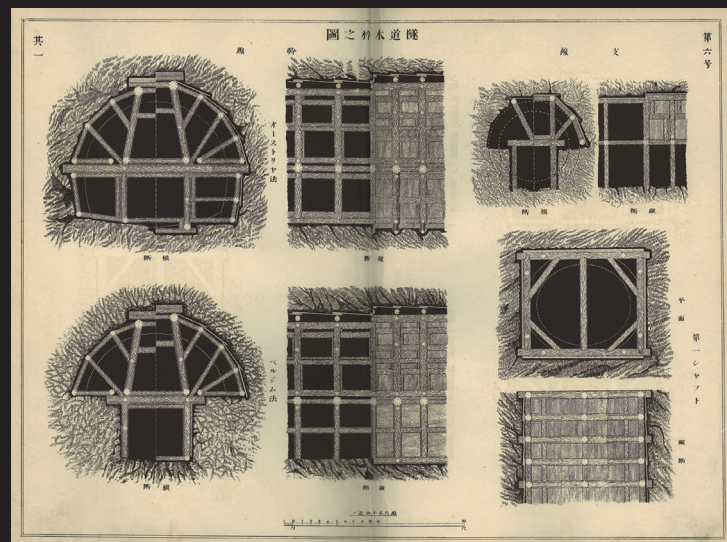
田辺朔郎は琵琶湖疏水事業の主任技術者として工事に携わった。工部大学校在学中に卒業論文として「琵琶湖疏水工事計画」をテーマに決めた田辺は、実習として行った京都現地調査の際に誤って利き手である右手の中指を負傷したが、一人で家計を支える母の労苦を思い治療をせず、痛みに耐えながら左手一本でレポート及び図面を描き上げたと言われている。田辺は、工部大学校校長大鳥圭介の推薦により琵琶湖疏水事業推進の旗頭、京都府知事北垣国道に抜擢され、明治16(1883)年、卒業と同時に京都府に御用掛として採用された。田辺は第一疏水通水1年後の明治24(1891)年「琵琶湖疏水工事図譜」を編纂するが、ここに展示してある「南禅寺水路閣図」、「隧道之坑門図」などの主要図面を含む琵琶湖疏水工事の大半の図面は、田辺の下で疏水工事に携わった小西得太郎の手によって描かれた。小西は、後に大学の製図教授を務めるなど、製図の腕は確かであったと言われている。土木史に残る大事業琵琶湖疏水は、田辺のリーダーシップの下、事業を具現化するための技術を備えた優秀な技術者達や技能者達の共同作業によって完成した。



1.琵琶湖疏水線路図



2.隧道洞門之図



3.隧道木柱之図



4.第二隧道西口

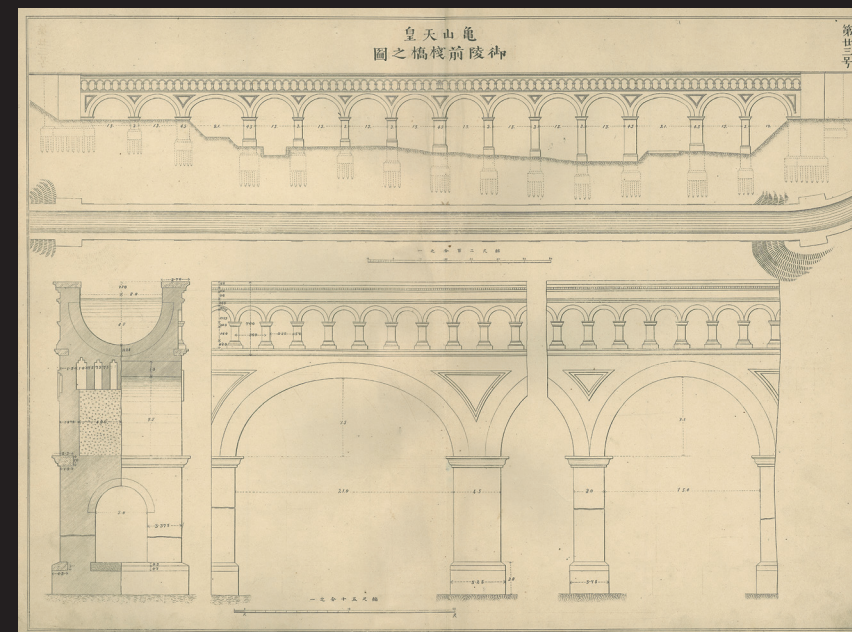


5.インクライン

## 京都の近代化を支えた琵琶湖疏水

明治2(1869)年、東京遷都によって衰退していった京都を近代的な産業都市として復興させようと、時の京都府知事北垣国道が京都の命運をかけて取り組んだ大事業が琵琶湖疏水である。琵琶湖疏水は、京都の灌漑、井泉、水運、水車による動力などを目的に計画され、琵琶湖の南西に位置する大津から取水し、京都の鴨川に合流させる壮大な計画であった。しかし、当時の国家予算の1.8倍という莫大な工事費や、トンネルを掘る山の地質などから予測される難工事、さらには京都が水浸しになるという風評被害などによって計画は思うように進まなかった。紆余曲折の結果、明治18(1885)年に着手した工事は、田辺のアイデアなどにより、豎坑式のトンネル工事や水力発電の導入など、日本初の試みが幾つも盛り込まれていた。また、この電

力により開通した京都市の電気鉄道もまた日本初であった。琵琶湖疏水(第一)が完成したのは工事着手から5年後の明治23(1890)年。その後、鴨川合流点から伏見までの区間が明治27(1894)年に、第二疏水が明治45(1912)年にそれぞれ竣工している。琵琶湖疏水の紹介で最もよく見る「南禅寺水路閣」は、亀山天皇御陵跡の南禅寺境内を通る区間であり、歴史的背景や環境、景観を壊さないように意匠的に細やかな配慮がなされている。また、オランダ人技術者ヨハネス・デ・レイケが内務省土木局からの要請を受けて調査した報告書で「経済的に問題がある」との結論とともに、田辺が作図した運河路線地図の技術だけは高く評価した、という田辺の技術力を示すエピソードも残っている。(2008年度 土木の日実行委員会)



6.亀山天皇御陵前棧橋(南禅寺水路閣)之図



7.琵琶湖疏水線路前景二万分之一之図



8.南禅寺水路閣